

## 平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 16
主査名	黒田達朗 名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻教授	
研究テーマ	観光に関する競争政策の実証的研究	
<p>グローバル化の進行と各国の経済成長を背景として、国内の観光客とともに海外からの観光客がもたらす経済効果が近年注目を集めている。そこで、我々は、まず 2016 年度の自主研究「国際的な観光競争における最適政策に関する研究」において、それぞれの国民が自国と他国に観光に訪れる選択およびその条件を前提として、他国からの観光客を誘致するためのハードあるいはソフトな社会インフラを政府が税金を用いて整備する状況を理論モデルによって分析し、国民の厚生最大化を目的とした政府と、料金収入による利潤最大化を目的とした観光業者、および両国民の効用最大化による旅行地の選択行動からなる 2 国間の 3 段階連続ゲームを用いた分析によって、その基本的含意を得た。さらに、2017 年度の自主研究「国際的な観光に関する競争政策の実証的研究」においては、より具体的な政策の効果を検討することを目的として、仏教に基づく中国の著名な観光地である普陀山を対象に、大陸側の寧波市から普陀山観光の拠点である舟山島までを橋によって繋ぐ 舟山大陸連島工程により 2009 年末に開通した 甬舟高速道路の具体的な効果や影響を確認する作業を行った。例えば、宗教的な目的地である普陀山と、海水浴などを目的とした周辺の地域では月別の訪問客数のパターンに及ぼす影響が大きく異なる点などが明らかとなった。</p> <p>今年度は、より広範な交通ネットワークの整備や高度化が観光に及ぼす影響を実証的に研究することを基本的な目的としている。具体的には、中国の全省を対象とした重力モデルを基盤として、高速道路や高速鉄道によるアクセスの向上が、各省を訪問する観光客へ及ぼした影響を時系列的に解析し、「第 1 の自然（ないし歴史遺産）」がインフラ整備という「第 2 の自然」のよって吸引力をいかに変化させているかを実証的に検討するものである。この際、当然のことながら、各観光地独自のインフラ整備（例：格の高い宿泊施設の整備等）などの影響も加味して、省間の競争戦略のあり方についても検討対象としたい。中国における観光に関する既存の実証研究は記述的なものが大半であるため、本研究は計量的な研究の嚆矢となることが期待されるとともに、わが国の観光政策に対しても一般性のある示唆が得られるものと期待される。</p>		